

2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年8月7日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7550 URL <http://www.zensho.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長兼CEO (氏名) 小川 賢太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部長 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03 (6833) 1600
 四半期報告書提出予定日 2018年8月7日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	144,047	1.6	2,958	△16.0	2,865	△18.8	1,154	△33.7
2018年3月期第1四半期	141,816	10.4	3,520	33.9	3,526	61.3	1,742	146.3

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 1,698百万円(65.0%) 2018年3月期第1四半期 1,029百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	7.90	-
2018年3月期第1四半期	11.75	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第1四半期	317,029	82,444	21.4	463.96
2018年3月期	295,316	82,204	22.9	461.76

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 67,817百万円 2018年3月期 67,495百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	-	9.00	-	9.00	18.00
2019年3月期	-	-	-	-	-
2019年3月期(予想)	-	9.00	-	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	310,804	6.8	10,956	9.3	10,496	3.8	5,759	12.8	39.40
通期	623,709	7.7	20,391	15.8	19,522	10.6	8,636	7.9	59.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	149,640,445株	2018年3月期	149,640,445株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	3,469,463株	2018年3月期	3,469,463株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	146,170,982株	2018年3月期1Q	148,244,096株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年6月30日)におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景として緩やかな景気回復基調で推移いたしました。ただし、先行きについては、米中貿易摩擦に見られる保護主義の台頭により、不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、実質賃金の伸び悩みから個人消費に力強さが見られないことや、食材価格の高騰、人件費の上昇により、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリーの既存店売上高前年比は101.1%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーの既存店売上高前年比は97.3%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーの既存店売上高前年比は102.5%となりました。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、40店舗出店、18店舗退店した結果、5,087店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,440億47百万円(前年同期比1.6%増)、営業利益29億58百万円(同16.0%減)、経常利益28億65百万円(同18.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益11億54百万円(同33.7%減)となりました。

セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。

① 外食事業

外食事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は1,229億2百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益は28億86百万円(同9.5%減)となりました。

外食事業における主要カテゴリーの状況は、以下の通りであります。

(牛丼カテゴリー)

牛丼カテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、29店舗出店、10店舗退店した結果、2,817店舗となりました。内訳は、「すき家」1,939店舗、「なか卯」460店舗(F C13店舗含む)等であります。

株式会社すき家本部が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとして、シャキシャキのレタスをたっぷり使用した「シーザーレタス牛丼」(並盛税込500円)、「シーザーレタスカレー」(並盛税込640円)を導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

今後ともお客様に愛される店舗づくりを目指すとともに、安全でおいしい商品を安心して召し上がっていただけるよう、店舗水準の向上と品質管理の徹底に努めてまいります。

株式会社なか卯が経営する井ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、506億74百万円(前年同期比3.7%増)となりました。

(レストランカテゴリー)

レストランカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、3店舗出店、3店舗退店した結果、1,370店舗(F C79店舗含む)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するスタンダードレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップの強化、ごちそう感のあるフェアメニューの投入及び店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&グリルレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、サラダバー・スーパバーの充実やフェアメニューの投入を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「パスタならジョリーパスタ」をテーマに、パスタ専門店の魅力をよりお客様へアピールできるよう、メニューのラインアップの拡充や旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさを追求してまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度の向上を図るため、旬の食材を活かした商品の開発及び店舗従業員の教育強化によるサービス水準の向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

以上の結果、レストランカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、309億98百万円(前年同期比1.9%減)となりました。

(ファストフードカテゴリー)

ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、8店舗出店、3店舗退店した結果、758店舗となりました。

株式会社はま寿司が経営する回転寿司の「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

以上の結果、ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、338億31百万円(前年同期比7.2%増)となりました。

(その他カテゴリー)

その他カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、73億98百万円(前年同期比7.8%減)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、冷凍ピッツァ等販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

② 小売事業

小売事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、211億44百万円(前年同期比2.8%減)、営業利益は71百万円(同78.4%減)となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ、株式会社尾張屋、株式会社フレッシュコーポレーション及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等であります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は3,170億29百万円となり、前連結会計年度末から217億13百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加、新店投資による有形固定資産の増加等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は2,345億85百万円となり、前連結会計年度末から214億73百万円増加いたしました。これは主に、劣後特約付ローンによる資金調達に伴う有利子負債の増加等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は824億44百万円となり、前連結会計年度末から2億39百万円増加いたしました。これは主に、配当金支払による利益剰余金の減少、繰延ヘッジ損益の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想につきましては、2018年5月10日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,142	44,722
受取手形及び売掛金	8,142	8,094
商品及び製品	15,965	18,160
仕掛品	726	750
原材料及び貯蔵品	4,872	4,789
その他	15,916	16,871
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	71,754	93,378
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	188,654	190,540
減価償却累計額	△107,400	△108,837
建物及び構築物（純額）	81,253	81,703
機械装置及び運搬具	11,588	11,914
減価償却累計額	△7,151	△7,358
機械装置及び運搬具（純額）	4,437	4,556
その他	98,746	100,159
減価償却累計額	△49,151	△49,812
その他（純額）	49,594	50,346
有形固定資産合計	135,285	136,606
無形固定資産		
のれん	17,833	17,707
その他	3,343	3,414
無形固定資産合計	21,176	21,122
投資その他の資産		
投資有価証券	1,328	1,055
差入保証金	33,506	33,471
その他	32,189	31,325
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	67,009	65,838
固定資産合計	223,471	223,567
繰延資産	89	84
資産合計	295,316	317,029

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,624	19,164
短期借入金	783	431
1年内償還予定の社債	1,780	1,780
1年内返済予定の長期借入金	35,509	34,048
未払法人税等	2,113	740
引当金	2,131	1,486
その他	33,127	32,597
流動負債合計	95,070	90,248
固定負債		
社債	13,800	13,800
長期借入金	85,227	110,529
退職給付に係る負債	578	586
資産除去債務	2,989	3,022
その他	15,446	16,399
固定負債合計	118,041	144,337
負債合計	213,112	234,585
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,470	23,470
資本剰余金	24,261	24,261
利益剰余金	27,152	26,977
自己株式	△6,021	△6,021
株主資本合計	68,863	68,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△29	△33
繰延ヘッジ損益	△605	85
退職給付に係る調整累計額	△24	△20
為替換算調整勘定	△707	△902
その他の包括利益累計額合計	△1,367	△871
非支配株主持分	14,708	14,626
純資産合計	82,204	82,444
負債純資産合計	295,316	317,029

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	141,816	144,047
売上原価	62,212	62,561
売上総利益	79,604	81,485
販売費及び一般管理費	76,084	78,527
営業利益	3,520	2,958
営業外収益		
受取利息	100	96
受取配当金	1	2
受取賃貸料	56	33
為替差益	154	—
その他	148	195
営業外収益合計	460	327
営業外費用		
支払利息	222	179
賃貸費用	36	18
為替差損	—	19
その他	194	202
営業外費用合計	453	420
経常利益	3,526	2,865
特別利益		
固定資産売却益	3	114
その他	148	47
特別利益合計	152	162
特別損失		
固定資産売却損	2	0
固定資産除却損	300	367
その他	134	123
特別損失合計	438	491
税金等調整前四半期純利益	3,240	2,536
法人税、住民税及び事業税	656	595
法人税等調整額	795	733
法人税等合計	1,452	1,329
四半期純利益	1,788	1,207
非支配株主に帰属する四半期純利益	46	52
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,742	1,154

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	1,788	1,207
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△585	△5
繰延ヘッジ損益	△180	691
退職給付に係る調整額	1	4
為替換算調整勘定	4	△198
その他の包括利益合計	△758	491
四半期包括利益	1,029	1,698
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	983	1,650
非支配株主に係る四半期包括利益	46	47

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	120,061	21,755	141,816	—	141,816
セグメント間の 内部売上高又は振替高	615	5	620	△620	—
計	120,676	21,760	142,437	△620	141,816
セグメント利益	3,190	328	3,519	0	3,520

- (注) 1. セグメント利益の調整額0百万円には、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	122,902	21,144	144,047	—	144,047
セグメント間の 内部売上高又は振替高	535	11	546	△546	—
計	123,437	21,155	144,593	△546	144,047
セグメント利益	2,886	71	2,958	0	2,958

- (注) 1. セグメント利益の調整額0百万円には、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。